

新CL 寓話— I

David K. Reynolds, Ph.D.
2019

CL 寓話は「建設的な生き方」の法則をストーリーに例えて説明しています。すでに出版されたCL 図書にある寓話も少しありますが、ほとんどは新しいものです。小学生にも理解できる内容で、人間共通の知恵が含まれています・

寓話が掲載されているCL 図書は“Water Books” シリーズから“Playing Ball on Running Water”

”Even in Summer the Ice Doesn't Melt” ” Water Bears No Scars” ” Pools of Lodging for the Moon” ” A Thousand Waves” ”Thirsty, Swimming in the Lake” ”Rainbow Rising from a Stream” です。これらの図書からの寓話は第2部に掲載します。

伝えようとしている大事な意味と共に読者が楽しんで読まれるよう願います。

第1部

1. おじいさんの庭

70歳の祖父コップは、数年前に妻に先立たれました。その後、僕たちの家の離れにあるゲストハウスに移りました。

母が毎日昼と夕飯を作って祖父のところまで運びます。祖父は一人で食べるのが好きでした。子供たちが食事中騒ぎ過ぎると言います。静かにおだやかに食べたかったのです。

日中おじいさんは野菜と花が植えてある庭で畑仕事をしたり、新聞を読んだり、昼寝をして過ごしました。人の握りこぶし大に育てたイチゴが自慢でした。

ある日、母は、赤コップが植えてある畑の横でおじいさんが倒れているのをみつけました。彼女は道具小屋の日陰におじいさんを引きずって横にしました。おじいさんは目を開け起きあがろうとしましたが、体がだるく力がはいりませんでした。日差しが強く、軽い熱中症にかかったようです。一日、二日の内におじいさんは元のように元気になり畑に出ようと思いました。しかし、母は怒っていました。



「もう庭仕事は止めた方がいいですよ」、「もう年だし、体力も弱くなっているのだから、ゆっくり休んで、楽に過ごしてください。体が心配ですから」と母はおじいさんに言いました。

でも、祖父コップは頑固な人でした。道具小屋でぼろぼろの麦わら帽子を見つけ出し、頭にコップリ、キャベツ畑の雑草を取り始めました。

母が強い日差しのところを避けるように言いましたが、おじいさんはだまって草取りをし続けました。愛想をつかした母は、裏口をバタンと閉めて家の中に入ってしまった。

その晩父が帰宅すると、母は「おじいさんがまた庭仕事する」と言いました。父に離れに行ってもらって、おじいさんによく話をして、息子が止めるように言ったらやめてくれるのではと期待しました。父は母の話を聞いてから、畑仕事を止めるよう言うのは賢明ではないと言いました。


「おじいさんは私たち家族みんなに何かをしてあげるのを楽しみにしているんだよ。自分が一生懸命畑仕事をすれば、新鮮なホウレンソウやコップを食べさせられるとわかっているんだ。丹精した花が庭に

咲き乱れ、君が家の中に飾ってくれる。子供たちが庭から育てたイチゴを摘んで喜んでいるのを見て、おじいさんは大満足なんだよ。君はおじいさんの食事を作って、着る物の洗濯物をしてくれるから、君に何かお返ししたいんだ。わかるかい」。

母は父の話を理解し、私もよくわかりました。人がほかの誰かのためにしてあげられる一番いいことは、その人が他の人のために何かをすることなのです。

<著者から>

長生きするのが人生でだいじな目標ではありません。目的や生きがいのない人生はみじめです。人に手助けするのを任せてくれないので死にたくなる老人がいます。コップはだれかの役に立ちたかったです。死んでしまったら何もできません。生きている内に家族にしてあげたいと思ったのです。生きている限り有意義な人生を過ごしたかったです。あなたは どう 生きたいですか。

 [目次へ戻る](#)